

交信かく乱剤ダイアモルアによるレタスの オオタバコガの防除

長野県野菜花き試験場 豊嶋悟郎

はじめに

オオタバコガ *Helicoverpa armigera* (HUBNER) は野菜、花きなど多くの作物を加害する広食性の害虫で、タバコガ *H. assulta* (GUENEE) の近縁種である。従来、我が国ではトマト、ピーマン、ナスなどのナス科作物においてタバコガによる被害が報告されてきたが(中沢, 1970; 柳, 1984), オオタバコガは最近まで重要害虫ではなかった。ところが, 1994年の夏から晩秋にかけて西日本を中心に平年にない多発生が見られ, 野菜類や花き類において甚大な被害が発生した(吉松, 1995)。2001年のオオタバコガの発生状況は, 全国的に発生量が多く, 石川県, 奈良県, 長野県および新潟県で発生予察注意報が発表されている。

長野県内ではトマト, ピーマン, ナスなどの果菜類, レタス, キャベツ, ハクサイ, アスパラガスなどの葉・茎菜類, さらにカーネーション, トルコギキョウ, キクなどの花き類に多発生し, 大きな被害が生じている。

オオタバコガがレタスに寄生した場合, ふ化幼虫が結球部に食入して内部を加害しながら発育し, 蛹化時に脱出する。幼虫が結球部に食入しても大半のものは外観からは寄生の有無を判別できず, 出荷後に被害が明らかになるケースが多い。したがって軽微な被害が発生した圃場でも, 出荷を差し止めて圃場全体のレタスを廃棄せざるを得ない場合が多く, 深刻な問題となっている。

本稿では, ダイアモルア剤を用いてオオタバコガの交信かく乱による防除を検討した結果(豊嶋ら, 2001)の概要を報告する。

I 長野県におけるレタス栽培の特徴と 防除の概況

長野県のレタス栽培は1975年以降急激に増加し, 現在では6,000 haを超える面積で栽培されている。これは全国のレタス栽培面積の約3分の1に達し, 生産量も全国1位となっている。我が国のレタスは周年栽培が行

われており, 長野県では夏季の冷涼な気候を生かし7~9月に収穫する夏秋レタスが中心となっている。レタス栽培に好適な気温は18~23°Cとされており, この適温帯を時期と標高で示すと図-1 Aの点で囲んだ範囲に相当する。つまり, 標高900 m以下では真夏の高温時期は栽培には不適となり, 高温時期を避けて6月と9月を中心とした年2作となるが, 標高900 mを超えると7~8月の年1作となる。なお, 年2作地帯でも実際には圃場全面を白マルチフィルムで被覆することにより

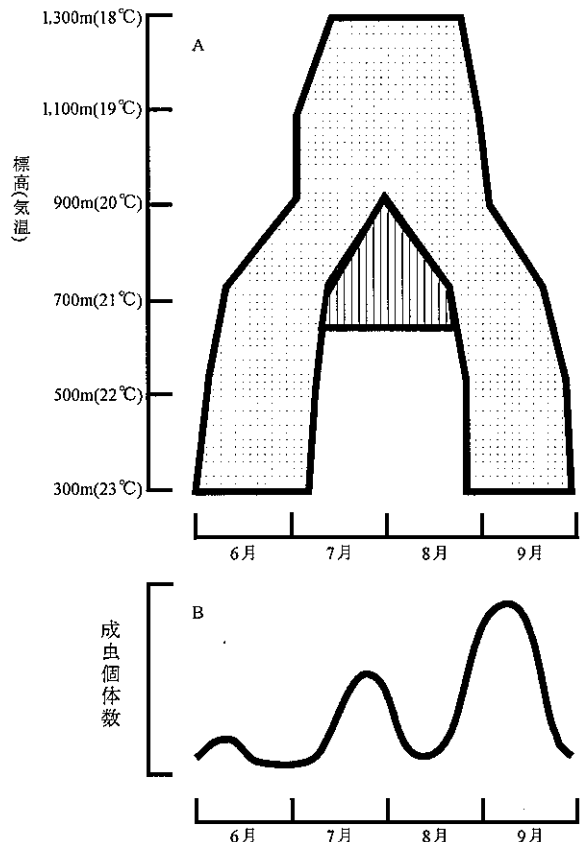


図-1 レタス栽培に適した標高, 気温とオオタバコガ成虫の発生消長の関係

A: 点で囲んだ範囲はレタス栽培に適し, 縦線で囲んだ範囲は晩抽性品種と白マルチの組み合わせで栽培に適していることを示す。

B: オオタバコガ成虫の発生消長モデル

Control of *Helicoverpa armigera* (HUBNER) by mating disruption using diamolure in lettuce fields. By Goro TOYOSHIMA (キーワード: オオタバコガ, 交信かく乱, ダイアモルア, 発生消長, 同時防除)